

# 新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

## 第三十二話

### 「新冠百三十年のあゆみ」(要約文)

新冠は、役場が初めて設置された明治十四年(一八八一)を「開町の年」としています。平成二十三年(二〇一一)に開町百三十年を迎え、多くの記念事業が行われました。今回は、百三十年の時代の流れを紹介します。

#### ①明治時代

明治時代の新冠は、すでに「新冠牧馬場(後の御料牧場)」という軍馬や農耕馬を生産、飼育する土地として広く活用されていました。牧場外の海沿い付近は、本州から移住者が入地し、しだいに市街地が形成されました。役場や学校、郵便局、駐在所が設置され、山間部では水田などの農業も行われ、住民が生活できる基盤が形成されつつありました。

#### ②大正時代

大正時代、節婦を中心にサケ、コンブ、イワシなどの漁業が盛んになり、大きな漁場が繁栄期を迎えていました。新冠全体の人口も増加し、大正十二年(一九二三)には、北海道二級町村制が施行され、「新冠村」となりました。

#### ③昭和時代

昭和十六年(一九四一)には太平洋戦争が勃発し、国家総動員や国民学校令が発令され、新冠からも多くの人々が戦地

に向かいました。戦後になると御料牧場が全面的に解放され、満州や樺太などから引揚者が多く入植し、大規模な開拓がはじまります。昭和三十年代からは、北海道電力による新冠川上流の発電ダムが築造されます。この頃から人口が大幅に増加、その数は一人を越え、開町八十年を迎えた昭和三十六年(一九六一)に町制が施行され、村から「新冠町」になりました。

#### ④平成時代

平成時代になると第三次新冠町総合計画がスタートし、市街地再開発によって、本町地区をはじめとする街並みはきれいに近代化されました。その後、レ・コールド館や新冠温泉レ・コールドの湯がオープン、「レ・コードと音楽による町づくり」を標榜するとともに、民間企業が旧校舎を美術館や老人介護施設へと利用するなど、活力ある取り組みが展開され、現在に至っています。

※令和三年(二〇二一)は、新冠町開町百四十年、町制施行六十年の年にあたります。



昭和 36 年  
町制施行を祝すパレード

### 『春の全国交通安全運動』

- 運動重点 ○子供と高齢者を始めとする歩行者の安全の確保  
○自転車の安全利用の推進  
○歩行者等の保護を始めとする安全運転意識の向上  
○飲酒運転の根絶  
○スピードダウンと全席シートベルト着用 **静内警察署**

#### 火災・救急出動状況 ( ) かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
2月	0件 (0件)	21件 (19件)
3年1~2月	0件 (0件)	45件 (46件)

#### 交通事故発生状況 ( ) かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
2月	2件 (1件)	1人 (0人)	1人 (1人)
3年1~2月	2件 (1件)	1人 (0人)	1人 (1人)

### 人の うごき

(令和3年2月末現在)

人口	5,392人	(前月比 - 3人)
男	2,648人	(前月比 - 5人)
女	2,744人	(前月比 + 2人)
世帯	2,768世帯	(前月比 + 11世帯)

町公式ホームページ

町公式フェイスブック

